

エクステンジプログラム報告書

1. 被招へい者（被派遣者）全員の氏名・所属・身分とそれぞれの滞在期間・滞在先
氏名：阿部 新助
所属：NCU
身分： 助理研究學者 (Assistant Research Professor)
滞在期間：2011/12/10 - 12/19
滞在先：CPS
2. 受け入れ担当者の氏名・所属・身分
氏名：木村 宏
所属：CPS
身分：特命准教授
3. 招へい（派遣）の目的（200字程度）
台湾国立中央大学 (NCU) の天文研究所との相互交流の推進。
今後の共同研究への可能性を探るだけではなく、組織間連携の強化へ向けた枠組み作りについての討論を行なうための招へい。
4. 成果報告（用紙が不足の場合は足してください）
NCU の天文研究所 (IANCU) は CPS との主要な連携研究機関であり、IANCU 天文との連携をいっそう深めることは、国際的なネットワークを構築しつつある CPS にとって有益である。その相互人材交流の一環として、IANCU の阿部助理研究学者が CPS に滞在した。被招へい者は、現在取り組んでいる地球接近小惑星 (NEO) に関する研究について、「PHOs (Potentially Hazardous Objects)」というタイトルで CPS セミナーを行い、NEO の起源や進化に関する知見を広めた。また、CPS スタッフや CPS 滞在・訪問中であった Harald Krüger (マックスプランク研究所太陽系研究所)、小林 正規 (千葉工業大学)、平井 隆之 (総合研究大学院大学)、佐々木 晶 (国立天文台) ら、多くのダスト専門家と小天体上での浮遊ダストに関して有益な意見交換をしたことや、CPS にて開催された「日本における超高速衝突実験の現状と将来展望 (12月 12-13日)」および第6回「はやぶさ2から考えるサイエンス研究会 (12月 15日)」で face-to-face の議論に参加し大きな刺激を得たことは、被招へい者が新たな研究課題を遂行する礎となった。また、JAXA/ISAS の吉光徹雄准教授と共に神戸市内の会社を訪問し、小惑星探査ローバ「ミネルバ2」に搭載を検討している超小型ダスト検出器について、現地のエンジニアらと直接議論する機会にも恵まれた。こうした多くの研究者や技術者と直接会って議論する機会を提供する CPS が、全世界のコミュニティーに果たす役割に被招へい者が非常に感謝する次第である。CPS をアジア地域のノードとして機能させるために、継続的な相互人材交流が重要な鍵となっていることが再確認された。